

「東北・新潟のキラ☆パーソン」動画配信事業について

「東北・新潟のキラ☆パーソン」動画配信事業は、若者が東北圏（東北6県ならびに新潟県）を舞台に自分のキャリアやスキルの向上を目指し、自ら行動を起こすための「動機」や「気づき」につなげることを狙いに、2019年度から地域情報発信事業として取り組んでいる。

当センターホームページ内「東北・新潟のキラ☆パーソン」サイトでは、現在、61名の「キラ☆パーソン」を紹介している。東北圏の様々なフィールドで挑戦し活躍している若手起業家や経営者、社会課題の解決に取り組む方、先端技術に取り組む研究開発者達の働く姿、生き方、価値観などを現場感のある動画で発信している。

今回、東北圏の各県より1名ずつ、計7名の「キラ☆パーソン」の動画概要を3回に分けて紹介する。

是非ご一読いただくとともに、サイト内の実際の動画をご覧いただき、その想いや取り組みを感じていただきたい。

※本誌での紹介内容は、各動画の制作当時の情報を基に構成しています。

当センター「東北・新潟のキラ☆パーソン」
公式 YouTube チャンネルはこちら→→→



ギャレス・バーンズ さん

◆動画タイトル

『元アメリカ空軍から
人気クラフトビール醸造家へ』

（公開日：2022年12月15日）

◆青森県弘前市

◆クラフトビール醸造所「Be Easy Brewing」経営



なぜ青森でクラフトビール造りを？

日本の美味しいクラフトビールが飲める場所のトップ5に「青森県」が入るようにビールを造っています。



地元の人たちが、仕事の終わりや休日に地元で造られたビールが楽しめる場所が必要ではないかという考えで、タップルームも作りました。

「Be Easy」（「落ち着いて、気楽に」の意）に込めた想いとは？

現代の生活は、自然の中で暮らすよりも10倍、20倍ぐらいのスピードで動いていると感じます。新幹線の中でも連絡をとって仕事をする人がいる。せっかくクラフトビールを飲むんだったら、ちょっと落ち着いて家族と話しながら飲んで、一旦ゆっくりになった方が生きてい

と感じるのではないかなと考えました。

開業までの壁は？

大きくは2つ。1つは、自分が外国人であること。2つ目は、東北の中でも青森県にクラフトビール工場があるというイメージが、当時は持たれていなかったこと。その2つで「駄目」、「無理」、「出来ない」、「何を考えている」という声しかなかったです。



逆境から事業を成功に導いたのは？

不安を抱えながらも、その不安にぶつからないように行動して成功するしかない。不安を理解しているけれど前を向く。やりたいことがあるんだったら、絶対やった方がいい。それで、成功するか成功しないか、ずっと続けられるかどうかは分からない。

みんなに聞かれました。「コロナ禍になると分かっていたら、ビール造りを始めていたの？」と。それでも挑戦したと思います。それで破産しても「100%頑張りました」って言います。どこの大学を出るよりも、どんな本を読むよりも、その経験によって、次やることに対して100倍くらい強くなっている人間になるから、

やってみないと進まない。だから、やるしかないと思います。



青森県で暮らす価値や可能性とは？

価値しかないです。地元の人たちは「青森だから…」とマイナスな発言になります。でも、私は「青森だからこうできる」、「青森だから成功している」と言えます。逆に東京に行けば、ここまでのビール工場を造ることは多分、無理です。

全国から青森にりんごを食べに来る、全国から白神山地を見に来るとか。自然でも、美味しいご飯でも、手作りの工芸品でも、全部青森に集まっているから、東京に合わせてPRするのではなくて、青森県に昔からあるものを普通に「これ、いいでしょ」って見せればいいだけだと思います。



ギャレス・バーンズさんの近況

- ◆2025年: 醸造した6銘柄のビールが、イギリスやベルギーなどの品評会で8つの賞を受賞。このうち、イギリスで開催された世界最高峰の大会「World Beer Awards」IPA部門で、6種のホップで醸造された「Tohoku 6 Hop IPA」が世界最優秀賞を受賞。

▶本編動画のご案内

本編動画は、下記二次元コードから視聴いただけます。



石田 陽佑 さん

◆動画タイトル

『カブトムシで循環型の未来をつくる！』

(公開日：2025年1月22日)

◆秋田県大館市

◆株式会社 TOMUSHI 代表取締役 CEO

(現在は、代表取締役)



株式会社TOMUSHIのビジネスモデルは？

当初は、単純にカブトムシを飼育して販売するというビジネスでしたが、今ではカブトムシが有機廃棄物を食べて、それで育ったカブトムシをペットとして販売したり、カブトムシを資源として水産飼料や油や薬品など、先端分野に活用しています。これまで循環しなかった資源をカブトムシによって循環して、新たな資源を生み出す事業を行っています。



現在、特に力を入れている研究は？

カブトムシを粉末にすると、油とタンパク質が取れます。油は燃料に使えるのか、燃料ではなく薬品成分として使えるのか。粉末は主にタンパク質のため、どのような使い道があるかなど、そういった研究に力を入れています。



経営危機から学んだことは？

起業当初は結構とんがっていて、「自分たちのやり方で全部やるんだ」といった考えでしたが、失敗を繰り返すことによって得られたものがあります。人は失敗すると恥ずかしいから、言いたくない気持ちがあるわけです。しかし、失敗したことをちゃんと伝えると相手も真剣に考えてくれて、手伝ってくれるということが、凄く大きな学びでした。

過去に、小蠅が大量に発生してカブトムシの餌が続かなくなってしまったことがありました。その時は殻に閉じこもっているため、周りに目が向きませんでした。実際に目を向けてみると、我々が必要としていた餌も、他の会社にとっては要らないもの（有機廃棄物）でした。これをうまく利用することによって、お互いにとって良好な状態となり、さらに利益率が飛躍的に伸びました。



全国に40箇所以上ある養殖プラントへ足を運ぶ頻度は？

かなりの頻度で行きます。もちろん現場の状況がどうなっているのかを確認したいというのもありますし、プラント数が増えたことによって、カブトムシが成虫になる瞬間をたくさん見ることが出来るようになったということもあります。適度に行かないと初心を忘れてしまうとしますので、原点に立ち戻るためにも、現場にはよく行っています。

今後のビジョンは？

日本発のベンチャーとして、世界の有機廃棄物の課題を解決していきたいです。燃やす処理ではなく循環型の処理を導入していき、そのうちの1つに、我々のカブトムシも入ってくるのではないかと考えています。

私の双子の兄は政治家ですが、お互いに「地方が豊かになるということは、日本が豊かになること」だと考えています。

私は事業を通じて、兄は政治を通じて地方を豊かにする。違う業界ですが、共に歩みを進めています。

石田陽佑さんの近況

- ◆2025年8月：「Forbes JAPAN 30 UNDER 30 2025」の「BUSINESS & FINANCE & IMPACT & LOCAL 部門」に選出（兄弟で同時受賞）。
- ◆2025年10月：秋田県大館市、福岡県大木町、福島県田村市、福岡県筑後市での農業経営改善計画が認定され、「公益認定農業法人」として承認された。カブトムシを対象とした認定は国内外初。

▶本編動画のご案内

本編動画は、下記二次元コードから視聴いただけます。

